

乳がん・子宮頸がん検診で早期発見を

乳がん・子宮頸がんは、定期的に検診を受け早期に発見することで治る可能性の高いがんです。今年度、市が実施する乳がん・子宮頸がん検診は次の通りです。まだの方は早めに受診しましょう。

■乳がん検診【対象者】昭和 47 年 4 月 1 日以前生まれの女性市民

※ 2 年に 1 回の受診で、昨年度未受診の方。検診無料クーポン券対象者は 2 年連続の受診も可能です。

■個別検診

日 程／平成 24 年 2 月末までの月・水・木曜日

定員各 5 名

実施場所／市立加西病院

料 金／3,700 円

申 込 先／要予約。市立加西病院地域医療室 ☎④ 2200

■集団検診

日 程／1 月 16 日（月）、2 月 6 日（月）定員各 30 名

実施場所／健康増進センター（市立加西病院敷地内）

料 金／40 歳代 3,000 円、50 歳以上 2,800 円

申込方法／12 月 5 日（月）から下記へ電話で予約

申 込 先／国保健康課 ☎④ 8723

■子宮頸がん検診【対象者】平成 4 年 4 月 1 日以前生まれの女性市民が対象

■個別検診

日 程／平成 24 年 2 月末まで

料 金／2,000 円

申 込 先／右のうち、希望の医院へ電話で予約

実施場所／・市立加西病院（地域医療室 ☎④ 2200）

・小野レディースクリニック（☎ 0794-62-1103）

・わかば・産婦人科（☎ 0794-62-6111）

■検診無料クーポン券

5 月末に対象者へ配付した乳がん・子宮がん検診の無料クーポン券の有効期限も平成 24 年 2 月末です。

早めに指定の医療機関で受診してください。



乳がん検診対象者

昭和 45 年 4 月 2 日～ 46 年 4 月 1 日生まれ
昭和 40 年 4 月 2 日～ 41 年 4 月 1 日生まれ
昭和 35 年 4 月 2 日～ 36 年 4 月 1 日生まれ
昭和 30 年 4 月 2 日～ 31 年 4 月 1 日生まれ
昭和 25 年 4 月 2 日～ 26 年 4 月 1 日生まれ

子宮頸がん検診対象者

平成 2 年 4 月 2 日～ 3 年 4 月 1 日生まれ
昭和 60 年 4 月 2 日～ 61 年 4 月 1 日生まれ
昭和 55 年 4 月 2 日～ 56 年 4 月 1 日生まれ
昭和 50 年 4 月 2 日～ 51 年 4 月 1 日生まれ
昭和 45 年 4 月 2 日～ 46 年 4 月 1 日生まれ

【問合先】 国保健康課健康担当 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

幼稚園・小・中・高校生の定期接種を受けましょう

乳幼児期に受けた予防接種は、時間が経過するにつれて効果が低下していきます。幼稚園・小・中・高校生で追加接種し、感染症から体を守りましょう。次の対象者は、接種料金無料です。

予防接種名		対象者
麻しん・風しん混合予防接種	2 期	幼稚園の学年で受ける予防接種（平成 17 年 4 月 2 日～ 18 年 4 月 1 日生まれ）
	3 期	中学校 1 年生で受ける予防接種（平成 10 年 4 月 2 日～ 11 年 4 月 1 日生まれ）
	4 期	高校 3 年生で受ける予防接種（平成 5 年 4 月 2 日～ 6 年 4 月 1 日生まれ）
二種混合予防接種		11 歳から 13 歳未満が対象。 小学校 6 年生（平成 11 年 4 月 2 日～ 12 年 4 月 1 日生まれ）での接種が望ましい。

■接種申込／市指定医療機関へ電話予約してください。市指定医療機関については、4 月に全戸配付した「親と子の健康づくりカレンダー」等を参照いただくか、下記までお問い合わせください。

■必要な物／母子手帳、体温計、健康保険証（本人確認のため）。予診票は医療機関及び市役所国保健康課にあります。

【問合先】 国保健康課健康担当 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

臨床研修制度と地域医療

■臨床研修マッチング

10 月 21 日に厚労省から臨床研修マッチング結果が公表されました。マッチングとは、医学部 6 年生が卒業後に 2 年間の医師研修を行う病院を決めるシステムです。臨床研修医を採用できる研修病院は全国で 1,000 施設余りあり、卒業者数に対して採用枠が大幅に多く、学生側の売り手市場と言えます。一部のブランド病院には 2 倍以上の応募者が詰め掛けますが、地方の中規模病院ではマッチング者ゼロという所も少なくありません。

■マッチング結果

北播磨の臨床研修病院は加西、西脇、三木、小野の 4 つの自治体病院で、マッチング枠は全部で 15 名です。加西病院は 6 名の枠を持ちますが、今回 6 名がマッチし、4 年連続のフルマッチとなりました。非都市圏の中規模病院という本院の条件を考えると、6 名の連続マッチングは破格と言えます。

■マッチングと地域医療格差

臨床研修制度により研修医の配置に地域格差が生じたため、厚労省は県単位で研修医枠を調整できるように平成 21 年に制度を改訂しました。マッチング率の高かった都道府県の採用枠を翌年削り、募集枠と応募数を次第にバランスさせる方針です。その際、フルマッチできなかった病院の枠が先ず削られるため、空き枠を出すと将来に渡って研修医を失う結果となります。本院が今年もフルマッチできたことに胸をなでおろしています。

マッチングの地域差が医療格差を生んだのは、医師数の問題ではなく、地域病院の活性の差を生んだからではないかと考えています。ですので、臨床研修医が集まる病院であり続けられるかどうか、加西病院にとっても重大な課題であると言う事ができます。

■臨床研修医は病院を活性化する

本院が臨床研修病院となったとき、研修医のような訓練中の医師が病院の医療に参加するのは市民にとって不利益ではないか、との議会質問がありました。その際私は、熟練を要する職能は全てベテランとビギナーがいる。そして全てのベテランは元ビギナーであり、ベテランのみを求めるのは間違いであると答弁しました。人材を育てない集団は活力を失うという確信もありました。

一方、臨床研修制度が始まってみて思いがけなかったのは、若い研修医を一番歓迎したのは担当される当の患者さんであったことです。臨床研修医は医療への熱意によって患者家族から深い感謝を受けています。自分の医療力を磨こうとする初々しい感受性が患者さんに安らぎを与えるものと感じます。同時に研修医を育てる教育研修の活性化は病院の医療レベルを向上させる推進力ともなりました。臨床研修医が病院にもたらした良き影響は計り知れないほどです。

■臨床研修医にとって魅力ある病院は市民が作る

臨床研修医が集まる病院であることができるかどうかは、病院の努力のみでなく地域市民の対応にも掛かっています。市民が大事に育てる病院は、臨床研修医が大事に育つ病院でもあるのです。

病院が若い人材を育て、将来の医療を担う医療者を生み出し、活力を維持できますよう、病院医療への理解と協力と支援を市民の方々にお願いする次第です。

（病院事業管理者・院長 山邊裕）



【写真】
臨床研修医のモーニング救急カンファレンス（症例検討会）

まちかど医療指南「予防接種に関するお話」

市立加西病院では、「市民の皆様と共に歩む病院づくり」を目指して、医師が直接街角に出向き医療講話を行う「まちかど医療指南」を行っています。

今回は、冬場のインフルエンザ対策の注意点や健康づくりに関するポイントなどを紹介しますので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。



■日時／12 月 14 日（水）15:30 ～ 16:15

■場所／イオン加西北条ショッピングセンター 1 階榎の木コート

■プログラム

・「今冬のインフルエンザ対策は万全ですか？」

講師：市立加西病院院長 山邊 裕

・「冬場の健康づくりについて」

講師：加西市市民福祉部国保健康課 保健師

【問合先】 加西病院総務課 ☎④2200 FAX④3460 byoin@city.kasai.lg.jp